

編集後記

▼『現代宗教研究』第五十九号をお届けします。

▼今号も「教化学研究発表大会」の発表を初めとした研究論文、ならびに「中央教化研究会議」の内容報告をさせていただきます。

▼今号収載の諸研究論文につきまして、森下恵王師、本間文裕師、岡田文弘師、山内寛久師、高野光拓師の論文は投稿、玉木晃仁師、中山観能師、影山教俊師、森下龍浄師、高野光尊師、中井本蓉師、村上慧香師の論考は「第二十五回 日蓮宗教化学研究発表大会」における発表が基になっています。また筑紫女学園大学人間科学部教授・宇治和貴先生の講演「クィア仏教学の必要性」は

仏教とジェンダー研究PTにおける研究の一環として行われました。また桃山学院大学社会学部教授・石川明人先生による講演「宗教は戦争の原因となりうるか」は中央教化研究会議に向けての研鑽の一環となります。

▼第五十六回中央教化研究会議は、令和六年（二〇二四）九月五日・六日、「仏教から戦争と平和を考える」をテーマに行われました。具体的小テーマは「国際紛争について理解を深める」「近代日本仏教の戦時体制とは

何か」「宗教は戦争の原因となるか」。これらのテーマに基づき、午前中は立正大学法学部非常勤講師・池上萬奈先生による「国際政治から見た戦争とは」、大正大学招聘教授・ジャーナリスト・浄土宗僧侶・鵜飼秀徳先生による「近代以降の日本仏教諸派の戦争に対する立場と主張」、さらに赤堀正明現宗研所長による「人はなぜ戦争をするのか」をそれぞれ、小発表の後、午後に三師によるパネルディスカッションを行いました。会場からの質問も多く盛会となりました。内容は本紙を参照頂きたいと思います。その後は二日間に亘つての分散会となりました。

▼第二十五回日蓮宗教化学研究発表大会は令和六年十一月二十九日、午前十時より宗務院五階講堂にて開催されました。午前から午後にかけて十名の研究発表があり、ここ数年中もつとも発表者が多く、恒例のパネルディスカッションやシンポジウムは開催できませんでした。研究発表が多くなるのは何よりも喜ばしいことであります。令和七年度も引き続き発表者が多くなることを期待したいと思います。内容的にも現宗研らしい内容に富んだ発表が多くありました。詳細は本文をご覧ください。